



学校だより  
ながや

令和2年度 第12号  
令和3年 1月29日  
横浜市立永谷小学校  
校長 平野 好子

こうありたい自分

副校長 大島 恵子

もうすぐ節分です。豆まきをして、恵方巻を食べるという節分の行事は毎年2月3日に行うものだと思っていましたが、実はそうではないそうです。今年は暦のずれの影響で1日早まり、124年ぶりに2月2日が節分となる珍しい年だそうです。

子どもの頃、父親を先頭に「鬼は外、福は内」と言いながら、家中に豆をまいてまわった楽しい思い出が浮かんできます。家の中にまくときは「福は内」、外にまくときは「鬼は外」。言い間違えて、福が逃げていかないように、鬼が中に入ってこないように、少し緊張して豆まきしたことをよく覚えています。我が家に鬼役はいませんでした。豆をぶつける相手のいない、平和な豆まきでした。

節分といえば、「鬼退治」。「鬼退治」で思い起こされるのは、昔であれば「桃太郎」、最近では「鬼滅の刃」といったところでしょうか。だいぶ前のことになりますが、教員になりたての頃、節分の時期に、自分の改めたいところを鬼と見なして、心の中の「鬼退治」をクラスの子どもたちとしたことがあります。

「忘れ物が多いから、忘れん坊鬼を退治したい。」「友達とけんかをしてしまう。けんか鬼をなくしたいな。」もちろん、誰でも自分の改めたいところを見つめることは、あまり楽しいことではありませんが、子どもたちが自分自身を見つめて、こうありたい自分を思い浮かべ、意識していることに感心した覚えがあります。今はできていないこともあるけれど、そんな自分を受け入れつつも、「いつかできるようになりたい。できるように努力したいな。頑張りたいな。」という子どもたちの姿に、自分の足りていない、できていない部分に落ち込みがちだった新米教員の私は、ふっと力がぬけたことをよく覚えています。できていないことに対して開き直るわけではないけれど、足りない部分を認めつつ、こうありたい自分に向かって努力していきたいと思ったものです。



今年の恵方は南南東だそうです。2月2日は南南東を向き、恵方巻を黙って食べながら（恵方巻は、口を離すと福が逃げてしまうので黙って黙々と食べるそうですね）改めてこうありたい自分について考えてみたいと思います。そして、その自分に少しでも近づくための努力を続けられるようにしていきたいです。